

## 第2回 阿賀野川水系流域懇談会 議事要旨

開催日時：平成20年11月20日(木) 13:30～15:30

場 所：北会津ピカリンホール

議事次第：1. 開会

2. 挨拶

3. 出席者の紹介

4. 議事

①第1回阿賀野川水系流域懇談会 議事報告

②今後の流域委員会の進め方について

・専門部会（上流・下流）設置について

・住民への意見聴取方法について

③流域の現状と課題を踏まえた今後の議論の方向性について

5. 閉会

### 【主な意見】

議事①：第1回阿賀野川水系流域懇談会 議事報告

（委員A）

- 温暖化により降雪量が少なくなり、一方では降水量が増えるということだが、阿賀野川水系、奥只見から考えると降雪量の影響が大きいと考えられる。専門的には年間降水量はどのようになると予想されているのか。

（事務局）

- あくまで100年後の年最大日降水量が1.1～1.3倍になるという試算であり、年間降水量については検討されていない状況である。

（座長）

- 雪解けが早くなると言われており、融雪を主要な水資源としている地域では、田植えの時期には既に雪が解けているというようなことが100年後には起こるかもしれない。

（委員B）

- 上流では部分的に数キロに渡って水量が極端に減る区間があり、生物学的に影響が大きく出ている。阿賀野川頭首工地点の流況だけで阿賀野川水系の水量は安定しているというのはどうか。上流区間の状況を鑑みて説明してほしい。

（委員C）

- 阿賀野川に注ぐ水は日橋川、阿賀川、只見川、喜多方の日中ダム系列の水量を全部合わせるものであり、合計の水量は安定していると思うが、阿賀川水系は極端に少ない。これは羽鳥湖で鶴沼川の水を福島県南に持って行っているためであるが、6月以降の水の必要な時期に水量が少ない。上流部の現状を御理解頂きたい。

（事務局）

- 阿賀野川全体を通して水が十分であるという意味ではない。水が少ない時に川を健

全にすべきと認識しているが、現状では農業、魚、環境などのいろんな面から考えて、まだ不十分と認識している。水を融通する面で今後ご協力を求める機会が出てくるかと思うので、その際にはまた相談させて頂きたい。

(座長)

- 1年を通じての流量の動き、水系全体の水のやりとりなど、次回に情報提供をお願いしたい。

(委員D)

- 温暖化が進むと蒸発散、賦存率、地域特性など変化すると思うが、背景として分かれば教えて欲しい。

(座長)

- 蒸発散は半乾燥地域では一番影響が大きい、日本のような湿潤な国では大きく変わるということは報告されていないので、あまり影響はないかと思う。ただ、長いスケールでは、植生が変わってしまう方が大きい。川のそばに竹がどんどん増えるということはある。

(委員E)

- 温暖化の影響により、従来の計画規模は変わらないけれども、計画高水流量が大きくなるということか。

(事務局)

- 日雨量が1.3倍に例えばなった場合、現在の計画規模100分の1が100分の1ではなくなるとも言えるし、日雨量が増えることを想定すれば、結果的に計画高水流量が増えることになるとも言える。

(座長)

- 地球温暖化を計画論に組み込んだ計画の事例は未だなく、あまり過大な計画とならないよう、順応的な対応をしていくというのが現在の方向性である。

議事②：今後の流域委員会の進め方について

- ・専門部会（上流・下流）設置について
- ・住民への意見聴取方法について

(委員F)

- 上下流で分けるのも良いが、川を介して上下流の文化や人の交流があることから、縦断的に一本貫いた視点も必要ではないか。

(事務局)

- 上流、下流で議論を深めるために部会を設置するものとするが、全体の話は懇談会で実施する予定である。

(委員G)

- 毎日、阿賀野川を見ている住民の皆様方のご意見は非常に貴重なものだと思う。

(委員H)

- 住民意見聴取会の時、委員の都合がつけば、参加した方が良い。

議事③：流域の現状と課題を踏まえた今後の議論の方向性について

(委員代理I)

- 河川整備計画が策定されることで、どのように地域が安定してくるかは、今後地域

住民にとって大変関心が高い事項である。地域住民に対して河川整備計画をどのように説明していくのか。30年は長期間であるため、短期・中期・長期にわたる計画が必要ないか。

(事務局)

- 今回の整備計画の対象期間は概ね30年ということで、その時間的な制約の中で何が出来るかということ住民の皆様方から治水に限らず、色々な面からのご意見をいただきたいと考えている。

(委員代理J)

- 現在の阿賀野市近辺で非常に阿賀野川の蛇行が激しく水衝部が形成されていたが、計画的に工事が実施され、流路変更されている。地先の方々以外の例えば上下流域の住民が知らないことが見られる。今後の課題としてPRの方に力を入れて欲しい。

(事務局)

- これまでも説明は行ってきたつもりであるが、なかなか御理解頂けない経過もある。治水・利水・環境は住民の皆様にも影響が大きいため、是非とも現状や課題等を理解頂いてご意見を頂きたいと思っている。

(座長)

- 国土交通省だけでなく地元の自治体や関係団体との連携も必要なのではないか。

(事務局)

- 住民、地域団体に協力を頂いている部分大きいと感じているが、地域の方との連携については、進めている。

(委員B)

- 環境保全とは、以前の姿を復元することなのか、現状を保全することなのか教えて欲しい。

(事務局)

- かつての阿賀川らしさを取り戻す努力をすることを考えているが、制約条件がいろいろとある中でどのように復元、保全するのかについては、明確には言えない状況である。

(座長)

- 単純に答えの出る問題ではないが、本懇談会にて生態系などを勉強して最終的な答えを出していけばよいのではないか。

(委員K)

- 治水・利水・環境・利用は相互に関連しており、総合的に管理・整備されるべきである。一度ばらして、関連する部分を一つ結びつけて捉えて頂きたい。例えば治水対策を行う中にも環境を考慮した新たな管理方法などを考えて欲しい。

(事務局)

- 様々な面が相互に関連していることは大事な点だと考えている。制約が多い問題であり、どの程度のことが考え得るか、関連させて整理したい。

(委員L)

- 温暖化に対する答申では、複合的な対応策・災害リスクを評価し、その結果、施設の対応や地域と一体となった施策が提案されているが、これら視点と整備計画を一本化した考え方があれば、将来的な環境変化に対応できると思う。

(委員M)

- 整備計画に環境保全という言葉が出てきていることは画期的なことである。もっと積極的な形で環境問題に取り組んでいくことも必要なのではないか。

(事務局)

- 環境保全については、積極的に目指すものを検討できればと思う。
- 多自然川づくりというような方向でまとめられればいかと考えている。

(座長)

- 阿賀野川、阿賀川らしい環境というものを取り込んで欲しい。

(委員D)

- 水質問題については、流域全体・生活形態が変わってきているため、BOD だけではなく窒素・リンの整理など、できる範囲から取り組みをお願いしたい。

(座長)

- BOD では環境基準を満たしているので、窒素・リンのことも今後きちんと整理して欲しい。

(委員N)

- 現在はきれいな水を農業用水に用いていることが多いが、国土交通省では今後きれいな水をなるべく上水に回すという考え方があると聞いている。阿賀野川水系においてもその考え方を取り入れて欲しい。

(委員H)

- 環境については、沿川住民の生活もあるため、あきらめざるをえない場所が出てくるので、個々の川に応じて、残せる場所はやっていけばいいのではないか。